

## 法学基礎教育研究班活動報告

加瀬 幸喜

法学基礎教育研究班の研究活動は、5年目を迎えた。新任の葛西まゆこ先生の参加を得て、われわれは本年度も活発な研究活動を行った。本年度の研究班構成員は次の通りである。法律学入門および現代社会と法担当の河野先生、現代社会と法担当の柴田先生、白石先生、山口先生、山本先生および加瀬である。具体的な活動は次の通りである。

- ① 5月10日に本年度第1回の研究会を開催し、本年度の研究課題について話し合った。研究課題は、①学習意欲の乏しい学生の指導方法、②憲法の小テスト問題の再編成および③解説プリントの改善に決定した。②については憲法専攻の葛西先生が、③については河野先生が担当し、素晴らしい成果をあげることができた。しかし、①の課題は、なお試行錯誤の途上にある。今年度は、入学予定者に入学前に国語と英語のプレイズメントテストを受験させ、その成績に基づいて、語学（現代社会と法を含む）のクラスを編成したのだが、上記テストの成績が下位である者のクラスについて、指導困難な状況が生じている。

ここ数年間、欠席の多い怠学者について、保護者に対し警告文を発送してきたが、今年もこれを継続することにした。

- ② 6月7日に第2回研究会を開催し、授業運営上の問題点、前期試験の範囲などを話し合った。
- ③ 6月23日に法律学科1年生を対象とした映画鑑賞会を開催した。上映した作品は、熊井啓監督「日本の黒い夏 冤罪（2000）」である。9割を超える1年生が参加した。学生には、感想文の提出を課した。
- ④ 7月27日に第3回研究会を開催し、前期授業の総括をした。個々の学生について、プレイズメントテストの成績と前期試験（全クラス統一問題）の成績とを比較したが、有意な相関関係は認められなかった。クラスごとの成績については、昨年度よりは上・下クラスの較差がみられたが、特に目立つものではなかった。この調査は、今後も定点観測的に継続する予定である。

今年も、前期試験時に、昨年と同様の学生アンケートを行った。アンケートの結果は、昨年同様に、学習習慣が身に付いていない学生が3分の1程度いることを示した。

- ⑤ 8月29日および30日に合宿を行った。合宿では、われわれ共通の悩みである成績不良・学習意欲欠乏の学生に対する指導方法を話し合った。それぞれの者がこれに関するノウハ

ウを開示しそれを共通知識とすることができ有益であった。

- ⑥ 今年も、前期試験の成績優秀者の氏名を掲示し、成績不良者については、10月19日に再試験を行った。
- ⑦ 11月29日に第4回研究会を開催し、小テストのテーマ、後期授業の運営および後期試験の範囲について話し合った。
- ⑧ 3月6日および7日に、第5回研究会を開催した。研究会では、今年の総括と小テスト問題の改訂が行われた。今年の総括として、①欠席を親に通知されることを恐れる学生など学生が幼児化していること、②ひらがな、アルファベットすら正確に書くことができない学生が存在すること、③他方、少人数ながら意欲的に勉強する学生もおるので、同一クラスで両者を教育することが困難であることなどが指摘された。いずれにせよ、年々成績下位の学生のレベルが下がっているので、成績上位の学生との格差は広がるばかりである。この実情にどのように対応すべきか、われわれに課せられた喫緊の課題である。
- ⑨ 3月26日および27日に、合宿を行う。合宿では、語学などの少人数クラス教育担当者と意見を交換し、来年度の現代社会と法クラスの課題を検討する。